



—東地中海地域ニュース—

シリア：ムアッリム外相のインタビュー

(9月15日付ワタン紙)

9月15日付ワタン紙は、13日付エジプト・シュルーク紙が報道したムアッリム・シリア外相の発言を掲載している。概要は以下のとおりである。

1. アラブの分断は、アラブ共同体が持つ可能性にも拘わらず、国際社会におけるアラブ共同体の比重を減少させる。分断は政策の違いをもたらし、アラブ・イスラエル紛争に対する評価の違いを際立たせている。アラブの全占領地からのイスラエルの撤退が不可欠とのアラブの統一した姿勢がなければ、和平は実現しない。このようなアラブの状況下では、地域の和平実現に向けたオバマ米政権の勢いを抑えるイスラエルの時間稼ぎが成功してしまうのを懸念する。アラブ共同アクションに関して、まずはパレスチナ問題、その後に公正且つ包括的和平の実現及びアラブ内の差異の除去、そして最後にアラブ経済統合の実現といった優先順位を決めなければならない。
2. (エジプト・シリア・サウジによる基軸体制に関し) 目標はアラブ諸国の核を形成することだった。現在、これは不可能だと思うか？パレスチナ問題への支援に関し、エジプト・シリア・サウジ及び近隣国のトルコ・イランが共通の立場を取る必要があるが、統一姿勢を取れていない。政策及び立場を調整する必要がある。これら諸国は地域的な重要性を持っており、その重要性を認識して行動するべきである。
3. (ファタハ・ハマス間のパレスチナ和解に関し) 最終的に決めるのはパレスチナ人である。エジプトとシリアは、ファタハとハマスが互いの差異を乗り越えるのを助け、促進することはできる。アッバース PA 大統領には、一方の大統領ではなく、双方の大統領であるよう求める。シリアは、両者から等距離を取っている。エジプトと競うつもりはない。今はパレスチナ和解実現の絶好の時であり、その為の舞台が整っている。しかし、このような分断が続くのであれば、パレスチナ人民が彼らの権利の一部でさえ手に入れることはできない。
4. (入植停止のためイスラエルに無償の褒美を与えることについての話に関し) 先般のアラブ連盟外相会合で、イスラエルへの褒美について話をする外相は一人もいなかった。現在の状況下で和平プロセスを続けても和平は実現しない。

5. (米にとっての、シリア・トラックのパレスチナ・トラックに対する優位性に関し) シリアはトラック・レースに加わるつもりはない。公正且つ包括的な和平とは、パレスチナ問題を公正且つ包括的に解決し、全てのアラブ占領地からイスラエルの撤退がなければ実現しないとシリアの考えを米は理解している。(近くオバマ米大統領が、シリア・トラック交渉再開の要請を含む和平プロセスに関する文書を提出する可能性を指しつつ) 和平に新たな思想は必要ない。和平プロセスは既にマドリード(注: 1991年のマドリード会議を指す)で採用されている。
6. オバマ政権の採る対話(政策)は、シリア・米関係の緩和に貢献している。しかし、まだオバマ大統領の約束を実行する能力に関し多くの疑問があり、彼の前に障害物を置く多くのロビーや圧力団体が存在する。我々は、オバマ政権が我々を助けると期待していたが、我々がオバマ政権を助けることが要請された。現在、オバマを助けることができる主要なものはEUである。何故ならば、EUはイスラエルの第一の貿易相手であるからだ。パレスチナ問題に対して統一姿勢を取ることで、アラブもまた助けとなることができる。
7. シリアは、米軍撤退後の段階に向き合うことができるようなイラクの統一と治安、アラブ・イスラムとしてのイラクの考えを支持している。しかし、イラク政府指導部には、これを望まない者もいるのであろう。
8. 現在に至るまで、イラク政府は爆破事件の犯人に関する確実な証拠を提出していない。この爆破がイラク反対派及びイラクのアラブ・アイデンティティ定着を標的とした政治的な目的に利用されていることが懸念される。何故シリアが嫌疑をかけられるのか? それは、シリアがアラブ民族主義の旗を掲げた拠点であり、砦であり続けたからである。